

# サンサンロード・GREEN SPRINGS

東京都 立川市

## 06 アフォーダンス

自然と腰掛けたくなるようなベンチや  
自然と子どもたちが水と触れ合える広場

## 17 こどものためのプレイエリア

ミュージアムの屋上や上階部では  
様々なワークショップや  
下の展示に関連するイベントを行う

## 03 シークエンス

舗装や緑の軸線により  
公園内の散歩ルートを歩きたくなる

## 23 身近な緑の保全・創出

公園内の植栽は地元の NPO も  
管理に加わっている

## 34 運動の仲間づくり

公園内では様々な運動イベントが  
企画される

## 04 行動をサポートする案内サイン

見つけて楽しい看板や外国人でもわかりやすい  
サインが駅前をはじめとした街のあちこちにある

## 01 リンクとプレイス

滞留を促すベンチや木陰



## 02 アーバン・ファニチュア

まちに溶け込んだ車止めやベンチは  
立川を代表するアート作品  
(図5：ファーレ立川)

左図出展：

ファーレ立川 小冊子

『立川アート散歩』

(ファーレ立川アート管理委員会)

JR4 路線が乗り入れる立川駅とその周辺は東京都心部へのアクセスが良く、人気が高いベッドタウンである。駅ビルを中心に発展した駅周辺には、デパートから映画館、ショッピングモール、自然豊かな公園まで、さまざまな施設が充実しており、暮らしやすい街として知られている。なんでも揃って便利でありながら、のんびりゆったりとした空気が流れていて、とても過ごしやすい空間である。

立川駅周辺は、米軍立川基地が 1977 年に全面返還されたのを機に、広大な土地に大規模施設が次々と建設される形で開発された。立川市は調和した商業・業務機能と職住近接の住宅機能の整備を重視しており、そのため、利便性の高いにぎやかな駅周辺の商業施設と、緑の多い街の両立が計られている。駅に近い地区には商業・業務施設群ファーレ立川や IKEA 立川が立地している。また、返還地の中央には大規模な緑である国営昭和記念公園があり、市民の憩いの場として愛されている。

国営昭和記念公園は「緑の回復と人間性の向上」をテーマにつくられた。豊かな緑につつまれた広い公共空間と文化的内容を備えた公園とすることを建設の目標としていて、その規模・内容は、国際的にも有数な公園となることを目指している。公園四季折々の花々や広大な広場、日本庭園、サイクリングロード、ドッグランなどで有名だが、様々な運動イベントや自然体験イベントなども開催されており、市民の健康づくりの場としても有用である。公園内の植栽は地元の NPO 団体や小学生によって一部管理され、都心近郊に住む人々にとって身近に緑に親しむ場となっている。公園内に一度入ると、風景の連続性や多様性が感じられ、散策したり、走ったり、歩き続けたいくなるような回遊性がある。園内には川も流れており、景観の連続性を追いかけてながら自然と身体運動を促せるという点で、公園の良さを存分に味わえる空間である。



図1 GREEN SPRINGS では芝生広場に隣接したカフェで子どもを見守れる。(筆者撮影)



図2 サンサンロードのグランドレベルのレストランやカフェではテラス席を出して街ににぎわいをもたらす。(筆者撮影)



図3 幅員40mのサンサンロード。高架下空間をうまく利用している。(筆者撮影)



図4 JR立川駅前から伸びるペDESTリアンデッキ (筆者撮影)



図5 ファーレ立川の車止め。アートが街に溶け込んでいる。(筆者撮影)



図6 昭和記念公園内のつたによる木陰。走り回った後は日陰で休憩できる。(筆者撮影)

アートと一体となった街づくりをするため、1994年にファーレ立川というアートエリアが誕生した。立川駅北口の米軍基地跡地に誕生したホテル、デパート、映画館、図書館、オフィスビルなど、11棟の建物からなる5.9haのアート街である。ファーレ立川のアートは車止め、ベンチや換気口など街を支える機能を持ち、立川の街に36ヶ国、92人、109点のアートが点在している。大通りや、植込みの隠れたところにまであり、探すのも楽しい。

立川駅を出て、緑川通りをペDESTリアンデッキで渡ると下り階段があり、その先に広いまっすぐな一本道がある。この通りは立川サンサンロードと呼ばれ、車道がない自転車・歩行者専用道路(幅員約40m、長さ約550m)が多摩モノレールに沿って続き、四季折々の景色を楽しめる。モノレールの高架下空間をうまく活用している事例だ。グランドレベルでは、商業施設が充実しており、またレストランなどはテラス席を出して街ににぎわいをもたらしている。

サンサンロードを進むと、GREEN SPRINGSと呼ばれる商業施設がある。「空と大地と人がつながるウェルビーイングタウン」をテーマに掲げており、2階に上がると広々とした空間とたくさんの緑と水場が広がっている。立川駅前の賑わいと昭和記念公園エリアの緑豊かな自然が交じり合う立地を日本家屋の縁側に例えて、「まちの縁側」が建物のコンセプトだ。建物から伸びた軒が半屋外の空間を作り、ガラス張りの建物が屋内であっても屋外を感じさせ、シームレスに建物と環境をつないでいる。また、立川のまちの歴史と、ここから広がる未来が“交差する場所”を表現したX型の街路が特徴的だ。その街路と多機能ホール屋上をつなぐカスケードのモチーフは、かつてこの地にあった飛行場の滑走路である。立川の歴史と風土が培われた、豊かな空間と時間が交差するランドスケープを緑と水のつながり方で表現して叶えている建築で、高さの違うベンチや噴水などで、子どもも大人も思い思いに時間を過ごすことができる。

参考文献

- ・ファーレ立川 小冊子『立川アート散歩』(ファーレ立川アート管理委員会)
- ・FARET TACHIKAWA ART MAP (立川市)
- ・GREEN SPRINGS ホームページ <https://greensprings.jp/about/>